

2015 年度春学期 授 業 評 価 報 告

科 目 区 分 名	外国語科目
-----------	-------

アンケート結果、今後の改善、その他特記事項（授業方法の工夫等）についての総評

外国語科目では 99.2%(昨年度春学期 98.2%)の実施率であった。回答率は、90.9%(昨年度春学期 90.7%)であり、ほぼ同じ傾向を示している。

全体的な傾向として、また昨年度の春学期と比較して、以下 4 点が挙げられる。

- (1) 授業内容の理解、授業に対する意欲的な取組、教員の話し方の理解度、授業内容とシラバスの一致、教員の授業に対する配慮に関する項目は平均値 4.0 を超え、全体的に高い。このことは昨年度春学期とほぼ同じ傾向を示している。全体の科目平均とほぼ同じ傾向を持つ。
- (2) 授業による知的好奇心の高まりや授業方法の工夫も平均値 3.8 以上であり、全体的に高い傾向にある。これは昨年度春学期とほぼ同じ傾向を示している。ただ、全学の科目平均からはやや低い傾向がある。これは、外国語という科目のためであろうか。学生に知的好奇心を高めるような外国語科目の授業内容を工夫することが大切である。
- (3) 外国語科目の授業外学習時間が 0.79 時間（昨年度 0.73 時間）であり、全学平均よりやや高い。全体として 6 割以上の学生が 30 分程度の授業時間外の学習時間である。これも昨年度春学期とほぼ同じ傾向である。
- (4) DWCLA10 の選択率は、思考力とコミュニケーション力がそれぞれ、54.9%(昨年度 54.0%)、コミュニケーション力が 41.6%(昨年度 38.5%)であり、この科目の特徴が表れている。この傾向は、春学期とほぼ同じである。

全体的には、やや異なった傾向も見受けられるが、昨年度とほぼ同様な傾向が読みとれる。この科目は予習、復習を最も必要とする科目である。しかしながら、(3)から分かるように、授業時間以外の学習時間が全体的に低いことを考えると、学生がもう少し多くの時間を学習することが重要である。大学で外国語能力を伸ばすためには、限られた科目の中で、時間をかけながら、効率的に学習することが重要である。そのためには、例えば、本学に装備されている Super 英語を使って、学生自身が主体的に計画的に学習できるようにすることが重要である。

また、グローバル人材育成等のことを考えると、全体的にもう少しコミュニケーション力を育成するような授業展開が必要である。今後の一層の努力を期待したい。

上記の枠内に収まる範囲内でご記入ください。